

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)上鶴間本町五丁目計画 新築工事	階数	地上15F
建設地	相模原市南区上鶴間本町五丁目1630番3外	構造	RC造
用途地域	1種中高層住専準防火地域	平均居住人員	1,085 人
気候区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年
建物用途	集合住宅	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年12月 予定	評価の実施日	2015年11月24日
敷地面積	11,502 m ²	作成者	(株)長谷工コーポレーション
建築面積	2,525 m ²	確認日	
延床面積	24,199 m ²	確認者	



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 1.5

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B: ★★★★★ B+: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100% (138 kg-CO₂/年・m²)

②建築物の取組み 62% (86 kg-CO₂/年・m²)

③上記+②以外の 62% (86 kg-CO₂/年・m²)

④上記+ 62% (86 kg-CO₂/年・m²)

このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q 環境品質 Q のスコア = 3.1

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.5

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.1

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 2.5

LR 環境負荷低減性 LR のスコア = 3.6

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.2

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 3.5

3 設計上の配慮事項		
総合		その他
住宅用途らしいアースカラー系の外壁色や、近接する建物との調和を意識した外観とし、町並みに配慮した。周囲への圧迫感の軽減のため、道路から後退した住棟配置とし、アルミ手摺やマリオンを用いて建物全体をいっつかに区切り、周囲の街並みとのスケールの調和を図った。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
・住戸はバルコニーを計画し、カーテンレールを設置している。 ・F☆☆☆☆・VOCの放出が極めて少ない部材を採用。	・共用部維持管理対策等級2、劣化対策等級3取得予定。 ・各住戸に電話、CATV、インターネットに対応した回線を引き込む計画。 ・入居者が多目的に利用出来る集客室を共用施設として計画。	・敷地外周の道路沿いには、公開性のある歩道状空地を設け、地域の賑いに配慮する。 ・自治体の景観計画に適合した彩色とした。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
・断熱性能等級3とした。 ・外部に面する住戸のサッシは空気層6mmの複層ガラスの仕様としている。	・解体時におけるリサイクルを促進する対策として、二重天井、二重壁の採用。 ・和室棟にダン楯を採用する。 ・共用部の給水管にステンレス鋼管を採用し、耐久性の向上を図っている。	・自治体の緑化基準を上回る緑化に努めた。 ・自治体の指導に基づいた雨水排水の流出抑制対策を実施。

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質), L: Load (建築物の環境負荷), LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性), BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される